

# 「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」 地域学校協働活動の取組事例

## 子供の体験と地域住民の交流の場となる「野田村学校支援地域本部」の取組(岩手県野田村)

### 取組の概要や経緯

学校・保護者・地域と連携を図り野田村学校支援地域本部を設置し、子どもの学習環境の整備や体験活動の充実を目指してきた。

平成22年7月に野田小学校、平成24年度から野田中学校へ各1名コーディネーターを配置するなど本事業の普及・啓発に努めている。



### 内容

- ・学校支援地域コーディネーターを核として、小・中各学校の教育的ニーズの把握、地域のボランティアの募集と連絡調整、事業の普及啓発・広報活動などを行っている。
- ・主な活動は、学習環境の整備や支援を目的に、地域のボランティアによる「図書室支援活動」「環境整備」「学習支援活動」等の内容となっており、活動を通じて地域住民と児童・生徒が直接ふれあう貴重な機会ともなっている。
- ・年2回の実行委員会において併せて評価・検証を行うなどより良い成果が得られるよう努めている。

### ポイント

- ①村内全戸に「野田小応援隊 ひかり」「支援だより」のチラシを回覧し、事業内容について周知や広報、新たなボランティアの掘り起しに努める。
- ②児童・生徒、ボランティア、学校へのアンケート調査の実施により、新たな課題や問題点など把握に努め、より良い事業の展開を目指す。

### 成果

・児童生徒にとっての体験活動、地域住民との交流の場となっており、コミュニケーション能力の向上が図られているほか、東日本大震災以降において児童・生徒が“地域のために何ができるか”を考える機会になるなど本事業の必要性が高まっている。

	実施回数(回)	延べ人数(人)	登録者数(人)
H26	69	666	69
H27	62	631	78
H28	58	1,096	81
H29	76	1,140	87

※ 野田小応援隊「ひかり」実施回数の推移(平成29年12月末現在)

### 今後の方向性

- 高齢化によりボランティアの確保が難しい状況となることが予想され、児童生徒の保護者など若い世代への働き掛けボランティアの確保を図る。
- 地域の人材の発掘や学校の要望に合致するニーズの掘り起しなど、コーディネーターの役割が大きく人材の確保が重要となる。
- 学校や地域との「人と人とのつながり」を大切にしながら、村民一人ひとりの「心の復興」につなげる。